



製造業の回復が鈍化。収益・景況DI値が10ポイント低下

10月の情報連絡員報告によると、回復傾向が続いていた製造業は、売上高には変化がないものの、収益・景況DI値が10ポイントほど低下した。今後の状況を注視したい。

なお、図表「各項目のDIの動き」については従来、各項目ごとのDI値を前年のDI値と比較した結果を掲載しておりましたが、今号より当月のDIを絶対値としてとらえ、6段階に分けて表示します。

【製造業63人、非製造業、87人、計150人の集計】

| 前年同月比 のDI値 | 全産業 | 製造業 | 非製造業 |
|---------------|---|---|---|
| | 前年同月比 | 前年同月比 | 前年同月比 |
| 売上高 |  -12.7 |  -8.1 |  -15.9 |
| 在庫数量 |  -7.1 |  -8.1 |  -6.3 |
| 販売価格 |  -28.0 |  -32.3 |  -25.0 |
| 取引条件 |  -20.0 |  -25.8 |  -15.9 |
| 収益状況 |  -37.3 |  -35.5 |  -38.6 |
| 資金繰り |  -28.7 |  -27.4 |  -29.5 |
| 設備操業度 |  -14.5 |  -14.5 | — |
| 雇用人員 |  -13.3 |  -9.7 |  -15.9 |
| 業界の景況 |  -36.0 |  -32.3 |  -38.6 |

※DI(Diffusion Index)値とは、景気の動きをとらえるための指標です。(−100≤DI値≤100)

DIの計算方法…増加・好転と答えた企業の割合−減少・悪化と答えた企業の割合

【例:調査数「20」のうち好転が「4」、不変が「6」、悪化が「10」とした場合…(4−10)/20×100=−30】



平成22年
10月

業 界 の 声

| 製 造 業 | | |
|---------------|-------------|--|
| 集計上の分類業種 | 具体的な業種 | 組合及び組合員の業況等 |
| 食 料 品 | 麺製造業 | 製粉会社から、来年1月より小麦粉価格が値上がりするとの通知があった。 |
| | 中華麺製造業 | 組合員3名が廃業した。収益は悪化する一方であり、倒産する前に自主廃業を行えることは、まだ幸いと言える。 |
| | 製粉業 | 輸入小麦を一定期間保管した後に製粉会社に売却するこれまでの国家備蓄方式から輸入後すぐ売却する即時販売方式に移行したことで、組合員は事務的作業に混乱をきたしている。また、備蓄を民間で引き受けることで、在庫リスクが高まるのが懸念されている。 |
| 織 維 ・ 同 製 品 | ネクタイ製造業 | クールビズ終了に伴い、売上増を期待したが、前年比で若干の減少であった。 |
| | 帽子製造業 | ニット帽をはじめとした防寒帽は好調であるが、秋物は全減だった。ボーラーハットと言われる山高帽が若者に人気である。 |
| | ニット製品製造業 | 仕事がなく、雇用調整助成金でしのいでいる組合員も多い。本年度は僅か半年の間に8組合員脱退した。(倒産2件、廃業3件、その他3件) |
| | 洋服製造業 | 受注量はそこそこにあるものの、加工賃があまりに低い。 |
| 印 刷 | 印刷業 | 組合が実施している「売上動向調査」によると、9月の売上は前年比1.9ポイント増となったが、10月以降の売上予測は前年同様となっており、厳しい状況が続いている。 |
| | 印刷加工業 | 定期物のおかげで仕事は続いているが、長期的な売上の減少傾向となっている。 |
| 化 学 ゴ ム | プラスチック製品製造業 | 操業度や売上はそれなりに動いているが、前年と比べると6～7%下回っている。 |
| | 塗料製造業 | 自動車、機械、金属製品向け塗料を中心に需要は足踏み状態にある。 |
| | タイヤ製造業 | 前年比では売上げは増加しているが、最悪だった昨年との比較であり、好転しているとは言い難い。 |
| | ゴム製品製造業 | エコカー補助金終了とともに減産となり、先行きに陰りが出てきている。 |
| 窯 業 ・ 土 石 製 品 | コンクリート製品製造業 | 売上高は減少。今後、更に落ち込む可能性がある。取引先である建設業者の与信に不安感がある。 |
| | | 前年同月比で全く業績は回復していない。 |
| 鉄 鋼 ・ 金 属 | 缶製造業 | ギフトシーズンに向けて、今後の売上動向を注視している。 |
| | ダイカスト製品製造業 | 自動車の減産、円高等の影響で生産数量は下落している。 |
| | 鋳物製造業 | 品目によっては動きがあるものの、今後の見通しは立っていない。 |
| | 鍍金加工業 | 9月より発注元が生産調整を行っており、受注量は減少している。依然としてコストダウンの要請が厳しいが、その努力も限界に達している。また、円高が続く発注先の海外移転が加速すれば、その影響は計り知れない。 |
| 一 般 機 械 | 写真製版機材製造業 | 売上は増加しているが、先行きの不安感は拭えない。電子書籍等、IT化への対応を検討することになっている。 |
| | 木工機械製造業 | 景気回復の兆しが見られない。 |
| そ の 他 の 製 造 | スポーツ用品製造業 | スノーボード市場はウエアよりも用具が堅調である。特にボードは新形状のソールのタイプが注目を集め、商戦の牽引役となっている。今後の売上見込みは「マイナス」「横ばい」との予想が多いものの、例年より「プラス」との観測も一部にある。 |
| | ガス圧接業 | 稼働率が上昇しない。受注単価は下落を続けている。年末にかけても受注増は見込めず、現状維持に追われている。 |
| | 工業塗装業 | 受注量が減少している組合員が増加。現状を維持している組合員は僅かとなっている。 |
| | 造花製造業 | 業界全体が厳しく、賛助会員が1社退会した。 |

平成22年
10月

業界の声

非製造業

| 集計上の分類業種 | 具体的な業種 | 組合及び組合員の業況等 |
|----------|----------|---|
| 卸 売 | 理容用品卸売業 | 若手組合員グループは積極的に経営知識の習得のための教育活動を実施している。 |
| | 美容用品卸売業 | 業務用の専売品がインターネットで販売されており、徐々に影響を受けている。 |
| | 鶏肉・鶏卵卸売業 | 価格低下により売上高は対前年比に届かず。また、猛暑により鶏の育成率が下がったことで、年末の需要期に品不足が発生されることが予想される。 |
| | 木材卸売業 | 円高により外材は値下がり傾向にある。国産材は出材の減少から強含みであるが、需要は依然として低い。 |
| | 紙卸売業 | 本来、秋需要が出る時期であるが、前月と売上はほとんど変わらない。 |
| | 電設資材卸売業 | 売上高は前年比5%前後増加しているが、大幅に売上が減少していた昨年との比較であり、回復感は全くない。 |
| | 玩具卸売業 | クリスマスなどに加え、新たな需要期を作るべく、毎年10月の第3日曜日を「孫の日」と定め販促活動を実施している。未だ世間に浸透しているとは言い難いが、今後とも継続的にPR活動を行っていきたい。 |
| | 電線卸売業 | 機械、半導体関係等、部分的に回復しているが、主要納品先である建設関係部門等が立ち遅れている。 |
| | 再生資源卸売業 | 円高による影響は現在のところ表面化してはいない。また、秋を迎えるにあたって大きな変化はない。 |
| | 食器卸売業 | 最終ユーザーが廉価品を希望しているため、取扱品の見直しが必要となっている。 |
| | ニット製品卸売業 | 秋冬物の売れ行きが徐々に回復しているが、全体としての景況感是好転していない。中国との取引において、納期遅延等のトラブルが発生している模様。 |
| 小 売 | 自転車小売業 | 単価は安いが売上台数が増えたため、売上高は上昇。業界は子供同乗自転車のリコールで対応に追われている。 |
| | 木材小売業 | 9月の決算でメーカーや問屋が在庫を処分したため販売価格が低下した。 |
| | 豆腐小売業 | 廃業者が2件発生した。業界団体では「豆腐業界での高齢者活用の視点」とのテーマで講演会が行われたが、組合からも多数が参加した。 |
| | 家具小売業 | 組合員の廃業が増加している。 |
| | 電器製品小売業 | エコポイント改正を控え、テレビを中心に活況を呈している。また、省エネ意識が消費者に確実に浸透し始めており、給湯設備や自家発電等の住宅設備関係も伸びている。ただし、エコポイント改正前の前倒し需要であることは否めない。 |
| | 中古自動車小売業 | 新車販売の不振から販売店が中古車に力を入れ始めたため、中古車オークションでの出品量が減少している。良質車の価格は上昇している。 |
| | 衣料品小売業 | 天候が安定し冬物衣料の売上が伸びたが、前年実績には届かなかった。 |
| | 文具小売業 | 売上高は前年と変わらないが、収益は減少している。繁忙期に向けてメーカーの新商品発表会・商談会が行われている。 |
| | 食品小売業 | 天候不順への対応の差が売上に影響を及ぼしている。また、販売価格の低下は相変わらず続いている。 |
| 商店街 | 合羽橋 | 毎年開催しているイベントの来訪者数と売上が、前年比で増加となった。厳しい景況下で予想外の結果となった。 |
| | 秋葉原 | 12月からのエコポイント制度の変更にともない、テレビの駆け込み需要が増加している。ただし、価格は下落傾向にある。また、尖閣問題の影響からか、国慶節以降、中国人客が激減している。 |
| | 銀座 | 外国人観光客が減少している。 |

| | | |
|------|----------|---|
| サービス | クリーニング業 | 今年は秋の繁忙期がずれ込み、10月半ばより忙しくなった組合員が多い。 |
| | 飲食業 | 天候不順による野菜の高騰で更に厳しい状況である。 |
| | 公衆浴場業 | 廃業者が依然として発生している。業界では東京都の補助を受け、活性化対策事業を実施している。 |
| | 廃棄物処理業 | 不況感は拭えないが、状況は持ち直しつつある。離職率も変わらず、雇用は安定している。 |
| | 複写業 | 業界では雇用人員を削減し、体質強化を図らざるを得ない状況にある。 |
| 運輸 | 貨物自動車運送業 | 全体として売上高は増加しているが、内容を分析すると保有台数が50台以上の有力中堅企業は回復する一方、小規模企業は横ばい状態である。ただし、業績が回復しつつある中堅企業も未だ採算的には厳しい。 |
| | 港湾運送業 | 大手の荷動きは回復傾向にある。中小業者の売上は微増となっている。 |
| 建設 | 内装工事業 | 廃業等に伴い、組合員の脱退が相次いでいる。 |

✓ 行政庁・中央会に対する主な要望事項

| 集計上の分類業種 | 具体的な業種 | 主な要望事項 |
|----------|----------|--|
| 鉄鋼・金属 | 建築金物製造業 | デフレ傾向が続く限り、業界の景況が上向くとは思われない。雇用を改善し、可処分所得の増大を図ってほしい。 |
| | 鍍金加工業 | あらゆる景気対策を早急に講じてほしい。 |
| 小売 | 家具小売業 | 小売業者に対する景気対策が手薄である。小売業者に対する助成措置の拡大を要望する。 |
| | 石油小売業 | ガソリンスタンドの地下タンクに対して、消防法に基づく規制強化が行われることになり、このままではスタンドの廃業が相次ぐことが予想される。業界存続のためにも規制の緩和か助成措置の実施を強く要請したい。 |
| | 自動二輪車小売業 | 原付二種（125CCクラス）の運転免許取得を容易にするため、自動二輪車運転免許の制度を改正していただきたい。 |